

広報

青少年おきたま

第54号

令和7年3月1日



「生徒会活動における対話」の発表



活発なワークショップ



話し合いの振り返り

世代を超えて語り合う「高校生と地域の大人の対話会」 テーマ：SNSとの上手な付き合い方

12月22日(日)、長井高等学校を会場に「高校生と地域の大人の対話会」が開催されました。各グループのワークショップでは、SNSのメリット、デメリットや利用の際の注意点を考えることを通して、世代を超えた活発な交流が生まれました。SNSのよさを生かすためには主体的に考え適切に判断する、ネットだけではなく直接的な関わりも大切にする、困ったことが起こったら信頼できる人に相談するなど、SNSの適切な活用のために必要なことが明らかになりました。

自分の考えを持ち堂々と発言する長井高校生と、ファシリテーターを務めていただいた長井市青少年育成推進員を始めとする参加者の皆様が、世代を超えて和やかな雰囲気の中で真摯に語り合う有意義な対話会になりました。

置賜地区青少年育成連絡協議会



山形県青少年健全育成県民大会

令和六年十月二十七日(日) 村山市民会館

青少年を取り巻く社会情勢は大きく変化しており、近年はスマートフォン
の急速な普及、闇バイトや薬物乱用の
問題などにより、青少年の健全育成へ
の影響が懸念されています。このよう
な現状を踏まえ、青少年健全育成に携
わる皆様が一堂に会し、課題の共有を
図るとともに、問題解決や実践活動へ
の決意を新たにするために、県民大会
が開催されました。

式典では、長年青少年活動に尽力さ
れた十四名の方々が表彰され、置賜地
区からは、青少年育成成功労者として、
土屋博様(米
沢市)が受賞
しました。ま
た、「いじめ
防止」県優秀
標語に選ばれ
た、内山千咲
登さん(高島
町立高島中学
校三年)が受
賞しました。



いじめ・非行防止セミナー

◆少年の主張発表
山形県少年の主張大会で最優秀に輝
いた、井上愛奈さん(白鷹町立白鷹中
学校三年)による、「障害を乗り越えて」
と題した発表がありました。部活動に

打ち込んだ日々、自らの経験から生き
方を考え、未来を切り開いていくとい
う強い意志が表れた堂々たる主張発表
でした。井上さんは、北海道・東北ブ
ロック代表として全国大会に出場し、
審査委員会委員長賞を受賞しました。

◆事例発表

「子どものウェルビーイングを求めて」
特定非営利活動法人クリエイトひが
しね理事の三浦通夫氏による事例発表
では、遊びを通して心を育てる素晴ら
しい取り組みをお聞きしました。遊び
は人間形成の基盤であり、学びや生き
方につながるものです。青少年育成活
動には多様な考え方や活動方法がある
ことを実感する発表でした。

◆記念講演

「でっかい子育てで子育て」
講師の中村文昭氏(クロフネカンパ
ニー代表)から、ユーモアを交えなが
らの楽しく学びの多いお話をお聞かせ
いただきました。中村氏は人との出会
いとポジティブな考え方を大切にし
てきました。その生き方の根幹をなすの
は「聞いた言葉で心がつくられる、は
き出す言葉で未来がつくられる」とい
うことです。会場の皆様の心に響く講
演でした。

山形県の未来を担う青少年が、豊か
に成長することを願い閉幕しました。

“いじめ・非行をなくそう” やまがた県民運動 令和6年度 置賜地区「いじめ防止」標語

◆参加校 66校
小学校47校 7,599名
中学校19校 4,416名
(特別支援学校を含む)
◆応募総数 12,015点

いじめ防止標語 最優秀

高島町立高島中学校三年
内山 千咲登さん

きっとある 優しい心
誰にでも

優 秀

- たすけあう ぼくもうれしい ともだちも
米沢市立塩井小学校2年 和田 詠翔 さん
- 「やめようよ」 いえるゆうき まずはぼく
飯豊町立第二小学校1年 土田 登俐 さん

入 選

- ネット上 ワンクリックに 責任を
南陽市立宮内中学校2年 木村 奏 さん
- あなただよ きずつけるのも すくうのも
川西町立吉島小学校5年 笹木 禄郎 さん
- ぼくのふつう きみのふつう みんなちがうよ
長井市立長井小学校6年 山口 大河 さん
- 一人じゃない わたしもいるよ 大じょうぶ
小国町立小国小学校3年 川上りあね さん
- 強さとは 相手を思う 心の強さ
白鷹町立荒砥小学校3年 梅津 七星 さん

ボードゲームは

世代を超えて

講師 小野 卓也氏
青少年育成連絡協議会研修会

九月十一日(水)、置賜総合支庁講堂にて、第二回置賜地区青少年育成連絡協議会が開催されました。研修会では、三峯山洞松寺住職の小野卓也氏より講演いただきました。

子どもたちがボードゲームに取り組むことによる効果として、やる気や社会性が育まれること、ルールの大切さを知ること、思考力が高まることなど、非認知能力の高まりが期待されることを学びました。その後、実際にボードゲームを体験してみると、初対面の相手であつてもすぐに打ち解けることができ、人と人が対面でつながり合うことのよさを実感することができました。

子どもたちとの人間関係を深め、本音を引き出すためには、心理的距離を縮めることが大切です。青少年の健全育成を推進するためには、つながり合うことを大切にしたいものです。



「子どもを取り巻く

大人たちのアップデートを」

高島町青少年育成町民会議
会長 清澤 穰



青少年の健全育成を目的とした事業はさまざまな形で実施されていますが、

その事業単位で得られる効果は概ね「瞬間的」なものであり、結局は日常的に子どもたちと接する大人たちとの「継続的」な関わりから形成される要素が大きいのだと痛感します。

提言

「活動を通して」

白鷹町青少年育成推進員会
会長 齋藤 政幸



私達白鷹町青少年育成推進員会では、今年度の活動として

白鷹町内コンビニの有害図書調査や白鷹中学校での朝のあいさつ運動、啓発活動として『ふだふだ市』にていじめ防止の標語展示とビラ配り等を行いました。あいさつ運動については活動が遅れ、十一月になってからの実施となり寒

敢えて悪く言えば、事業に参加した子どもたちがそこで学びや気付きを得たとしても、親をはじめとした周りの大人の社会性如何によっては、元の木阿弥になるということです。更に言えば、そうした事業に理解のない家庭では、子どもたちの学びや気付きの機会を、そもそも選択肢の段階で奪ってしまうということです。

多様化とは、自分に都合のいいことだけを正当化するという意味ではありません。価値観とは、狭い視野の限定的な考え方のことではありません。他者への共感と社会への貢献という、子どもたちに学んでほしいことを、まず大人が示せているのか、

い中での活動となりました。新生徒会の皆さんと一緒に行いましたが、積極的に大きな声であいさつを行う姿に元気をいただきました。

また、白鷹中学校三年生の井上愛奈さんは、第四十六回少年の主張全国大会で北海道・東北ブロック代表として発表を行い、「審査委員会委員長賞」を受賞されました。「障害を乗り越えて」と題された発表では、家族と学校の仲間に支えられながら障害を乗り越えて行く心の成長、そして自分と向き合い挑戦する姿勢と意思の強さが感じ取られ感動したところでした。

青少年育成活動の中で子どもと大

大人たち自身も、今の自分が「完成形」ではないことを自覚しながら、地域社会や職場での社会参加の場を通じ、学び、気づき、成長していくことが肝要です。

社会参加を通じて、自分自身を見つめなおす、大人同士のつながりを作る。地域行事活動やボランティアはその絶好の機会であると思うのです。

とはいえ、こうした発信をこの紙面のようないわゆる「界限」だけで発信しても実効性はありません。それぞれの地域、事業で一人でも多くの大人と共感の輪を広げ、活動をしていきたいと思えます。

人の対話会等、子どもと接する機会も増え感じた事ですが、子ども達はそれぞれ自分で考え判断し成長している様子が伺えます。県民運動では『大人が変われば子どもも変わる』をスローガンとして活動しています。大人が変わるには何をすれば良いのでしょうか？積極的に子ども達とコミュニケーションを取る事は、一つの方法として充分な意義があると感じました。白鷹町では、今年度中に『次世代未来ビジョン会議』と題して、荒砥高校生との対話会を計画しています。子ども達との対話を増やし、相互に成長できる会としたと思います。